結局吾々ノ具体的方策タル別紙書記局案原案ニ揭ゲタル點ハ高唱シ又他國ノ各代表ニ對シテハ「日本同様ニ關税ヲ下ゲヨ貿易日本ハ人口ガ過剰ナルカラ勢ヒ海外ニ進出シナケレバナラヌ此場合移住民ノ權利ノ認否ヨリ[illegible]ヲ遂ベ國際的ニ提携シテ何故日本ガ勞働[illegible][illegible]會ヲ[illegible][illegible]逆[illegible]的態度ニ出ルニ於ケル

(2) 公式代場合ノ態度トシテハ假令ソレガ勞働代表側ノ主張ニ反若シ場合ニ於テハ固ヨリ政府資本家代表側ト交渉協力シ最善ノ努力ヲ爲サネバナラヌ但シ其場合吾々ノ眞摯ナル態度ニ對シ政府資本家側ガ不眞面目ナル態度又ハ吾々ノ主張ヲ反駁スルガ如キ場合ハ最早妥協[illegible][illegible]餘地ナキヲ以テ最後的措置

質問ナケレバ別ニ書記局原案通リ（可決）

右ニ關シテハ其際ノ形勢ニ應ジテ組合會議ヨリ勞働代表ニ對シ訓電ヲ發スルコトトス、而シテ其際ニ處スル用意ハ明十九日海員組合事務所ニ於テ松岡[illegible]米窪[illegible]荷川代表等最高幹部ト

財團法人協調會大阪支所